

学会在庫の刊行物について

現在「気象研究ノート」「夏季大学テキスト」「気象学の手引」等の在庫があります。残部の少ないものもありますので、ご希望の方は、申込者名・送り先・希望の印刷物と冊数・代金の支払方法を明示して、お早目に事務局（〒100 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内）へお申し込み下さい。申し込み期限は本年末日までです。

気象研究ノート

第100号(1969年) 僅少

(回顧と抱負)特集

第116号(1973年11月)

ライダ(レーザレーダ)と気象観測

第119号(1974年6月) 僅少

都市・建築と気象

第121号(1974年6月) 僅少

雲物理特集 I ——氷の物性——

第122号(1974年11月)

雲物理特集 II ——雲核・氷晶核——

第123号(1974年12月)

雲物理特集 III ——雲結晶・あられ・ひょうの生成——

第124号(1975年8月)

流れの可視化法

追補 境界層と乱流

第126号(1975年11月)

大気中の内部重力波

I. 内部重力波の理論……………田中 浩

II. 超高層の大気波動……………加藤 進

第127号(1975年12月)

大気汚染気象特集

大気境界層の拡散に関する構造……………横山 長之

大気中のガスや粒子状物質の変遷……………大喜多敏一

光化学大気汚染に関するシンポジウム

・光化学大気汚染中の反応のモデル化と

その素反応論的基礎……………秋元 肇

・大気汚染物質の分布と気象条件との

関係……………福岡 三郎

・光化学大気汚染のモデリングと

シミュレーション……………木村富士男

・討論

(付録)大気汚染気象用語集……………河村 武

第128号(1976年3月)

最近の気象学と気象事業の展望

——気象庁創立百年を記念して——

第129号(1976年9月)

台風特集

第1章 台風の構造と発達のパワー……………山岬 正紀

第2章 熱帯低気圧の発生と台風観測

……………井沢 龍夫・門脇俊一郎

第3章 台風の進路とその予報

……………野本 真一・岡村 存

第4章 台風災害……………奥田 穰

第130号(1976年12月) 僅少

気象の測定

気象の測定論……………齊藤 実

風・温度・湿度及び乱流輸送量の測定

……………文字 信貴・水間 満郎

大気汚染物質の測定……………大喜多敏一・川村 清

大気微量成分の分光測定……………小川 利紘

大気電気の測定……………三崎 方郎

雨滴粒径の測定……………後町 幸雄

降雨強度の測定……………当舎満寿夫

地上からの放射測定に基づく気温の

鉛直分布の測定……………嘉納 宗靖

第131号(1977年5月) 僅少

スペクトル解析

・スペクトル解析の方法と気象要素

のスペクトル……………花房 龍男

・時空間スペクトル解析法と大気

大循環モデルへの応用……………林 良一

第132号(1977年9月) 僅少

気候の物理学的基礎と気候のモデリング

(GARP Publications Series No. 16)

序論と一般勧告

観測された気候変動の特性

気候のモデル化の基本原則

気候モデルの感度、予測可能性の研究

気候モデルに含まれる物理的、化学的、

生物学的諸過程

観測計画

……………浅井 富雄・朝倉 正

田中 康夫・能登正之訳

第133号(1977年12月)

都市気候に関する最近の展望

日本および外国の諸都市における気候
 の変化……………吉野 正敏
 都市気候の分布の実態……………河村 武
 都市気候の成因とモデリング……………河村 武
 歴史資料による気候変化, 米の生産量,
 価格, 人口などの関連に関する研究
 ……………高橋浩一郎
 2次元拡散モデルによる熱使用限界の推定
 ……………高橋浩一郎

第134号(1978年3月)

数値予報

数値予報の歴史的展望……………岸保勘三郎
 基本方程式とエネルギー論……………相原 正彦
 積雲対流のパラメタリゼーション……………山岸米二郎
 境界層の取り扱い……………片山 昭
 放射による加熱率の差分計算法と
 その北半球分布……………久保田 効
 客観解析法……………清水 喜允
 4次元同化作用とイニシャルゼーション
 ……………住 明正
 数値計算上の問題……………木田 秀次・岡村 存
 近藤 洋輝・菊池 幸雄
 数値予報プロダクトの利用
 ……………立平 良三・菊池 正武
 予報可能性と延長予報……………住 明正
 世界のオペレイショナル・モデルの現状
 ……………吉田 泰治

第135号(1978年9月)

海洋力学

総論……………吉田 耕造
 海洋大循環……………高野 健三
 海面付近の力学……………鳥羽 良明
 海洋における地形性モード波……………梶浦欣二郎

第136号(1978年12月)

融雪なだれ特集

融雪機構と熱収支……………小島 腎治
 融雪水の積雪内部への浸透……………藤野 和夫
 融雪水の流出……………小林 大二
 なだれ……………清水 弘

第138号(1980年1月)

梅雨前線帯の豪雨

極東における梅雨前線帯
 ……………二宮 洸三・秋山 孝子

大雨を伴う梅雨前線帯の構造……………吉住 禎夫
 梅雨前線帯の中間規模擾乱の構造
 ……………吉住 禎夫・二宮 洸三
 梅雨前線に及ぼす積雲対流の影響
 (数値予報モデルによる実験)……………二宮 洸三
 豪雨の水収支……………二宮 洸三・秋山 孝子
 梅雨前線帯の下層ジェットと
 レインバンド……………二宮 洸三
 大規模低気圧にともなう豪雨……………二宮 洸三
 中間規模擾乱に伴う降雨の微細構造
 ……………秋山 孝子・二宮 洸三
 豪雨の中規模の様相……………二宮 洸三
 積雲対流と豪雨……………二宮 洸三・山崎 孝治
 日本の豪雨の気候学的特性と地形性降雨
 ……………二宮 洸三・榊原 均

第139号(1980年3月) 僅少

気象レーダ特集

気象レーダの基礎……………小平 信彦
 気象レーダのデータ処理
 ……………立平 良三・志崎 大策
 武田 喬男・岩坂 泰信
 内藤 恵吉
 レーダによる雨量測定と短時間予測……………立平 良三
 レーダを利用した最近の研究……………武田 喬男

第140号(1980年8月)

気候変動シンポジウム(I)

一諸要因の変動一
 過去の気候変動……………高柳 洋吉
 太陽放射の変動性……………桜井 邦明
 第四紀の火山活動……………町田 洋
 最近の火山活動……………山元龍三郎
 地球軌道要素の変動……………中島 映至
 地磁気変化……………川井 直人

第141号(1981年5月)

気候変動シンポジウム(II)

一諸要因の変動一
 世界気候プログラム(WCP)について
 ……………関口 理郎
 気候における雲の役割……………武田 喬男
 気候モデルにおける雲の取扱い……………久保田 効
 黒潮の長期変動……………寺本 俊彦
 海が運ぶ熱量……………高野 健三
 大気海岸相互作用にかかわる海洋変動

へのアプローチ……………鳥羽 良明
 砂漠の変動……………鈴木 秀夫
 第142号(1981年7月)
 エアロゾル特集(基礎編)
 大気エアロゾルの挙動……………三崎 方郎
 エアロゾルの測定法(I)
 (サンプリングによる法)……………中谷 茂
 エアロゾルの測定法(II)
 (リモートセンシングによる法)……………内藤 恵吉
 配付価格

号	100	116	119	121	122
通常会員	750	950	1700	440	970
定期購読					
団体会員	940	1380	2700	650	1500
会員外	1020	1550	3000	730	1700

号	123	124	126	127	128
通常会員	1400	710	650	870	2560
定期購読		670	600	800	2440
団体会員	2100	1080	1000	1300	3900
会員外	2400	1200	1100	1500	4400

号	129	130	131	132	133
通常会員	2400	1300	670	940	750
定期購読	2250	1230	640	900	710
団体会員	3600	2000	1000	1400	1200
会員外	4100	2200	1150	1600	1300

号	134	135	136	138	139
通常会員	4000	1200	1250	2700	1600
定期購読	3800	1100	1200	2570	1500
団体会員	6100	1800	1900	4000	2400
会員外	6850	2000	2150	4500	2700

号	140	141	142
通常会員	1250	940	1450
定期購読	1200	900	1350
団体会員	1900	1400	2200
会員外	2100	1600	2500

その他の刊行物

○Proceedings of the Symposium on the Use of Satellite Data in Meteorological Research, November 3-5 1968 Tokyo 1,000円

○新しい気象学(夏季大学テキスト)

第5回(1971年)

1981年8月

地震予知……………関谷 博
 環境汚染……………河村 武
 天気予報……………光野 一
 長期予報……………朝倉 正
 数値予報……………植村 八郎
 台風の人工制御……………藤原 美幸
 航空気象……………伊藤 博
 ロケット高層気象……………清水 逸郎
 実験気象……………駒林 誠
 海洋と気象……………前田総之助
 気象と民俗学……………渡辺 次雄
 1970年代の気象……………根本 順吉

第9回(学校における気象教育)1975年

学校における気象教育のあり方……………高橋浩一郎
 初中等教育における気象学……………斉藤 実
 大気汚染観測と整理……………河村 武
 気象の実験I:氷晶核の測定
 雲はどのようにしてできるか……………田中 豊頭
 気象の実験II
 雲粒と降水粒子の測定法を中心にして……………佐粧 純男
 気象のカリキュラムの実際と指導……………高井 浩深
 新聞天気図を利用した実習……………高井 浩深

第10回(学校における気象教育特集)1976年

最近の気象学と気象事業……………小平 信彦
 全地球的にみた大気の流れ……………松野 太郎
 気象と病気……………藤巻 時男
 新しい天気予報(数値予報)……………増田 善信
 気象と社会……………根本 順吉
 気象の観測……………山田 三朗

第11回(学校における気象教育特集)1977年

天気図でみる高・低気圧の構造……………矢花 和一
 大気境界層の気象……………島貫 陸
 学校における気象観測と観測
 データの学習への活用……………原嶋 宏昌
 パネルディスカッション(話題提供要旨)
 学校における気象教育……………伊藤 久雄
 小学校における気象教育……………吉野 清
 中学校における気象教育……………蒔田真一郎
 高等学校における気象教育……………三芳 瑛
 気象学の正しい理解が必要……………島貫 陸

第12回(学校における気象教育特集)1978年

豪雨……………二宮 洸三
 渦巻について……………木村 竜治

気象資料の見方と解析					
—気象資料の整理—	河村	武			
天気図で見る高・低気圧の構造	失花	和一			
GMS (ひまわり) の写真に見る気象現象	山下	洋			
第13回 (日本の天気特集) 1979年					
「ひまわり」から見た日本の天気	伊藤	嘉一			
大気大循環と日本の天気	荒川	正一			
小気候・局地気象	田宮	兵衛			
天気図の見方と利用法	能登	正之			
極地の気象	川口	貞男			
第14回 (台風特集) 1980年					
台風の構造と発生・発達について	山岬	正紀			
台風の数值実験	北出	武夫			
台風の解析と予報	上坂	慶正			
「ひまわり」から見た台風	山下	洋			
			台風業務実験	平塚	和夫
			台風と災害	奥田	稔
			降水の確率予報	立平	良三・保科
			第15回 (熱収支と気候変動特集) 1981年		
			最近の気候変動と異常気象	能登	正之
			太陽放射と地球放射	会田	勝
			簡易日射計の考察	会田	勝
			気象衛星写真の見方	柴田	宣
			気候に影響する大気中の微量成分	三崎	方郎
			配付価格		
			第5回		700円
			第9回～15回		1000円
			○気象学への手引		350円
			続・気象学の手引		850円